The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

編集後記

編集後記を書くことになったものの何を書こうか迷った．そういや1つあったなということでそれを書いてみることにする．

最近，タンポポを引き合いに外来種が在来種を脅かしているという話があった．ヨーロッパから来た外来種が日本の在来種を脅かしている云々．外来種のタンポポは年間を通じて活動し，花・茎とも大柄なものが多く，受粉を伴わないで単独で年何度も繁殖が可能．また発芽も2週間程度と短く開花までのスピードも速い．これに対して在来種はこじんまりしたものが多く，繁殖は年間1回（春）で夏は活動を休止．種の発芽も秋から始まる．さらに，受粉が必要なので近くに別のタンポポも必要．こりゃどう見ても完敗だろう，と気になり，家の近所の雑草生い茂る河原に出かけてちょっと確認してみた．在来種と外来種の見分け方は簡単で，外総包片と呼ばれる花を包んでいる緑色の部分が反ってなければ在来種，反っていれば外来種．1つ，2つ，……と探してみれば，意外や意外，外来種を探すのが難しい位うちの近所のタンポポはほとんどが在来種ということが判明．世の中で言われている話とは全然違った結果になった．色々調べてみると，氷河期からの名残で寒さを凌ぐためにロゼットと呼ばれる地べたに這うようにして広げた葉を持つタンポポにとっては，夏場の他の植物が生い茂るような環境では充分日に当たることが難しいため，特に在来種は夏を避けて活動することで他の植物（雑草）と共存する戦略をとっているとのこと．一方，外来種は都会のような移り変わりの早い環境では持ち前の力(繁殖力)を発揮できるものの，田舎のように草木が生い茂るような激しい生存競争の環境では，逆に入っていくことはかなり難しいらしい．また，在来種の受粉が必要なのも“種の多様性”の面で考えると，生存競争に有利に働くとか．

単なる雑草にもこのような奥の深さがあることに敬服したが，案外我々が普段接しているプラズマ科学研究においてもこのような一見劣勢に見える事象の中にブレークスルーや偶然の発見（セレンディピティ）に繋がるヒントが隠されているのかもしれない．このことに気づかせてくれたうちの近所の環境（確かに，タヌキ・キジ・鹿の類が出没している（笑））に感謝しなければ．（森　道昭）

プラズマ・核融合学会役員

会　長	本島　修	副会長	小川　雄一　藤山　寛
常務理事	中村　幸男（総務委員長）		
理　事	疇地　宏（企画委員長）	板垣　正文（広告委員長）	伊藤　早苗
	上杉　喜彦	斧　高一	加藤　敬
	近藤　光昇（財務委員長）	坂本　慶司（広報委員長）	笹尾眞實子（プログラム委員長）
	寺井　隆幸	永津　雅章	林　康明（出版委員長）
	堀池　寛	山﨑　耕造（編集委員長）	
監　事	飯尾　俊二	松尾　慶一	

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター　山﨑耕造(名大)
エディター　図子秀樹(九大)，田中雅慶(九大)，福山　淳(京大)，村上匡且(阪大)，室賀健夫(核融合研)
編集委員　秋山毅志(核融合研)，市來龍大(大分大)，出射　浩(九大)，大原　渡(山口大)，神谷健作(原子力機構)，片山一成(九大)，假家　強(筑波大)，菊池崇志(長岡技科大)，熊谷　晃(東京エレクトロンAT㈱)，後藤拓也(核融合研)，小林進二(京大エネ理研)，近藤正聡(核融合研)，三瓶明希夫(京都工繊大)，四竈泰一(京大)，柴垣寛治(鈴鹿高専)，曽我之泰(金沢大)，高橋幸司(原子力機構)，田代真一(阪大接合研)，中村龍史(原子力機構)，原　正憲(富山大)，東口武史(宇都宮大)，藤岡慎介(阪大レーザー研)，前原常弘(愛媛大)，三浦英昭(核融合研)，三宅弘晃(東京都市大)，宮本光貴(島根大)，吉沼幹朗(核融合研)

乱丁・落丁本は，ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください．送料当方負担にてお取り替えいたします．

プラズマ・核融合学会誌第86巻第7号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1　4階
社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185　Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp　URL: http://www.jspf.or.jp/

印　刷　株式会社荒川印刷
2010年（平成22年）7月25日
定価1,365円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は（社）プラズマ・核融合学会が所有しています．

編集委員会開催日について　当学会誌の編集委員会は原則として，毎月第1火曜日に開かれています．但し，都合により変更になる場合があります．

NII-Electronic Library Service